

CSR方針

矢崎グループのCSR活動の軸である「CSR方針」は、経営基本方針をCSRの観点で再整理し、具体化することによりステークホルダーへの責任を明らかにしたものです。

矢崎グループの社是である「世界とともにある企業」「社会から必要とされる企業」は、社会からの信頼と期待に応えることにより実現します。

私たちは、経営基本方針に基づき、常にステークホルダーの声に耳を傾け、

ここに定めた方針を事業活動を通じ、実践することにより社会の持続可能な発展に貢献することをめざします。

私たちは、お取引先がこの方針に賛同し、ともに行動するよう働きかけます。



お客様

- ▶ お客様の期待および関係法令や規格に基づき、安全で高品質な製品とサービスを提供します。
- ▶ お客様の視点に立ち、製品に関する必要な情報を適切に提供します。
- ▶ 開発の成果は知的財産権によって保護し、積極的に活用するとともに、他者の正当な知的財産権を尊重します。
- ▶ 業務上知り得たお客様の個人情報を含むさまざまな機密情報を、厳重に管理・保護します。
- ▶ 事業を取り巻く予測可能なあらゆるリスクの予防に努めます。万が一、緊急事態が起こった際に従業員や地域住民の人命を最優先に行動するとともに、事業を継続できるよう取り組みます。



地域社会 国際社会

- ▶ 各国の文化・法令などを尊重し、あらゆる企業活動において関係法令およびこの方針をはじめとする定められたルールを遵守します。
- ▶ 事業活動を行う国や地域の輸出入管理に関する法令などを遵守します。
- ▶ 公務員や政治家に対する贈賄を禁止し、行政機関などとの健全かつ透明性ある関係を維持します。
- ▶ 地域社会の一員として豊かな社会づくりをめざし、積極的に対話するとともに社会貢献活動を推進します。



地球環境

- ▶ 矢崎地球環境憲章に基づき、次世代に豊かな地球環境を引き継ぐために環境保全活動を積極的に推進します。



お取引先

- ▶ お取引先と公平・公正かつ透明性ある関係を維持し、誠実な取引を行います。
- ▶ 各国・地域の公正競争を維持するための法令などを遵守します。
- ▶ 調達活動においても人権、環境などこの方針で定められた課題へ配慮します。



従業員

- ▶ 誠実な対話を通じ、従業員との信頼を構築します。
- ▶ 従業員の多様性を尊重し、均等な雇用機会を提供するとともに、差別を行いません。
- ▶ 人権を尊重し、これを侵害することは認めません。また、強制労働や児童労働は行いません。
- ▶ 賃金、労働時間をはじめとする労働に関する法令を遵守するとともに、全従業員に対し公正な労働条件を提供し、安全で健康的な労働環境を維持します。
- ▶ 従業員の人材育成に積極的に取り組み、能力や創造性の向上を支援します。

矢崎グループのCSR

これまで矢崎グループは、CSR方針の具現化を図りながら、着実にCSRを実践してきました。今後、持続可能な社会の実現に貢献するためには、長期的かつ広範な視野に立ち、矢崎グループが事業を通じて優先的に取り組むべき社会課題を特定し、その解決に向けて経営資源を集中しながら、より能動的にCSRを実践すべきとの認識に基づき、以下のことに取り組んでまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



— SDGsへの対応

矢崎グループは、世界各国で広く事業を展開する企業であるという認識のもと、開発途上国のみならず先進国自身が取り組むユニバーサルな国際目標であるSDGsの実現に貢献していきます。SDGsとは、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」(SDGs:Sustainable Development Goals)であり、2030年を目途に、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動などの社会課題を解決することをめざすもので、17の目標と169のターゲットで構成されています。すべての国や人々が当事者意識を持ち、互いに協力し合いながら、その達成に向けて行動することが期待されています。

矢崎グループが今後優先的に取り組むべき社会課題を検討する上では、このSDGsが掲げる社会課題の解決に対して、私たちの事業が及ぼすポジティブ／ネガティブな影響を十分に考慮しながら進めてまいります。

— マテリアリティの検討

矢崎グループは、社会課題の解決と自社グループの持続的成長を両立すべく、事業を通じて優先的に取り組むべき社会課題をマテリアリティ(重点課題)として特定するプロジェクトを進めています。マテリアリティの特定に際しては、SDGsをはじめとして網羅的に抽出した社会課題につき、矢崎グループの社是や経営基本方針、さらには事業戦略などとの関連性を分析します。分析の結果、矢崎グループの事業に及ぼすポジティブ／ネガティブな影響が大きいと評価された課題を、矢崎グループのマテリアリティとして特定します。

特定した各マテリアリティに関しては、可能な範囲で目標管理を実施するとともに、その進捗については、次年度以降のCSR REPORTを通じて、関連するステークホルダーの皆様にご開示していきます。

1

SDGsやステークホルダーの要請などをもとに、検討すべき社会課題を抽出します。

2

矢崎グループの社是、経営基本方針、事業戦略などと、①の社会課題との関連性を分析し重要度評価を行います。

3

矢崎グループのマテリアリティとして特定します。